

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 個々の生徒の能力、適性、興味、関心や進路希望に応じた主体的な学習を促し、きめこまかな指導の実践により、生徒の進路希望の実現を図る。</p> <p>2 基本的な生活習慣を身につけ、自らを大切に他人を思いやる心をもつ生徒を育てる。</p> <p>3 教職員、生徒が希望、情熱、愛情、信頼をもって一体となる、特色ある、活力にあふれる学校づくりを進め、保護者、地域から信頼を得る。</p> <p>4 学校評価、教職員評価システムによって、自己点検、評価を行い、教育活動の改善を目指す。</p>	<p>1 基礎学力の定着をはかるために、様々な授業の工夫を行った。「にしおつスタディカップ」や「国際交流活動」は学習意欲の向上に成果があったが、コースにあった教科指導や自主的な学習時間の増加に繋がる取組や自習室の活用に課題が残った。</p> <p>2 規範意識の向上と道徳心の育成については、全教職員が服装指導や頭髪指導に取り組み、一定の成果が見られた。また、携帯電話・スマートフォン等の使用に関する指導に課題が残った。今後も、教職員が一丸となった持続的で粘り強い指導が肝要である。</p> <p>3 進路指導については、学年部と進路指導部、各教科との連携が図られ、個々の生徒に対して丁寧な指導を最後まで行った。</p> <p>4 広報活動については、説明会の申込方法等の工夫や、ホームページの更新、広報誌の定期的な発行と中学校訪問を通して、本校の教育活動を外部へ発信することができた。今後も、地域の中学校を中心に連携を深め、学校に対する信頼を高める取組が必要である。</p>	<p>1 各教科で生徒の学習意欲を高めるわかりやすい授業実践を行うとともに、各コースにあった授業を行い、主体的な自学自習時間を増加させ、学力向上を図り、希望進路を実現させる。また、国際教育の充実を学校全体で図る。</p> <p>2 頭髪指導、服装指導、携帯電話・スマートフォン等の使用に関する指導等の生徒指導を全教職員で一致して行い、生徒にけじめのある学校生活を過ごさせることで、規範意識の向上と公德心の育成をはかる。</p> <p>3 部活動を充実させ、生徒の心身の健全なる成長をはかる。</p> <p>4 学校説明会を充実させるとともに、学校HPや「西乙だより」を通じて、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加を図る。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	最終評価	成果と課題	
組織・運営	◇分掌間・教科間の協力推進	○分掌及び教科がそれぞれの領域を超える連携と調整を図り、教職員全体が当事者意識を持ち、本校の教育課題に取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌間の調整や連携が図られ、教職員で情報を共有し、共通認識のもとに全員が一致した運営体制が取れている。 新たな取り組みや学校改革を、分掌間で連携しながらすすめていく。 	
学習指導	◇学力の向上	○「学習強化週間」の設定や「自習室、スタディールーム」の利用推進をすすめることで自学自習による学力向上を図る。 ○各コースの目標に応じた授業を行う。土曜講習の定着、長期休業中の講習や学習合宿に、積極的に参加をさせる。 ○早期に卒業後の目標を設定し、家庭学習時間を最低1日1時間確保し、2時間以上の家庭学習を促す。日々の学習時間の確保により、課題等の提出の徹底を図る。	B B C	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習強化週間は、一定の成果が認められた。 自習室、スタディールームの学習環境が整い、参加者も増えた。更なる活用を目指す。 にしおつスタディカップの各分野の優秀者をタイムリーに知らせることができ、生徒の意欲向上につながった。 土曜講習の内容について検討し、1年生の参加はかなり定着した。 長期休業中の講習については、よりニーズに合った内容の検討をしていく。 家庭学習時間が全体として増加していない課題について検討する。
	◇国際教育の推進	○国際関係者会議により、学校全体としての取組をすすめる。海外研修旅行を通じて、生徒の主体性を引き出し、成功させる。アーリントン高校、ジャコビー高校等との交流をはじめとする国際交流活動を充実させる。	A		<ul style="list-style-type: none"> 各教科が工夫し、課題提出の徹底に向けた取組み等についても検討する。 国際関係者会議を開催し、校内体制が整い、海外の高校との交流が充実した。 国際教育は、本校の特色として認知され、生徒のニーズに応えられている。 本校の英語教育の方向性が明確になってきており、それに伴う生徒の目標意識や学習意欲も向上してきている。 生徒の読書意欲の喚起及び魅力的な図書館づくりを目指して、様々な工夫をして取り組み、幅広い生徒達の知識や意識向上に役立っている。
	◇図書視聴覚教育の充実	○新着本等の紹介やディスプレイを工夫し、生徒の読書意欲の向上と、図書委員会の活性化を図り、図書館の利用を促進する。教科学習や特別活動等での図書室や視聴覚教室の利用を増やす。	A		
進路指導	◇希望進路の実現	○進路指導部と学年部の連携を密にし、また、生徒面談を積極的に行い、生徒個々の進路希望に応じた指導を徹底し、私大合格者数の増加及び進路決定率100%の実現を目指す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の1年間の講習の計画を生徒に示すことで、受験計画立案につながった。 入試に関する説明会の実施、担任による面談等により、希望進路の実現につながった。特に、公募制推薦入試での合格者が増加した。 進路講演会や大学見学会の実施、学習する環境を整備することで、学校全体に学習する雰囲気作りができていく。
		○大学等への見学の実施をはじめ、学年の進路行事、進路HRを充実させる。	B		
生徒指導	◇規範意識の醸成	○頭髪指導、服装指導等の生徒指導を全教職員で一致した指導を行う。挨拶や身だしなみ等についても意識の向上を図る。 ○特に、携帯電話・スマートフォン等の使用に関して、マナー・ルールを理解し守らせる指導を、全教職員が一致して行う。	B B	B	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容や教職員の指導体制が整理され、生徒の学校生活も落ち着いている。 様々な問題や課題に対して、予防や対策を考えた指導を徹底する。 スマートフォン等の使用マナー向上の指導を継続して行う。 学校行事に主体的に取り組む生徒達の姿勢が見受けられる。 生徒会の活動については、地道な活動等も含め、継続して更に活性化を図る。 個々の部活動の活性化を更に進めるため、クラブ員集会などを通じて、意識向上を図り、全体としての活性化についても検討していく。 講演会などにより、生徒達の人権意識向上を図っている。 登下校時の自転車マナーについての課題について、日常の交通安全のマナーの意識を向上する事に、これからも取り組んでいく。
	◇特別活動や部活動の充実	○学校行事に積極的に参加し、目的意識を持って集団で行動でき、協力することや責任を果たすことの意味も体得させる。 ○部活動に積極的に参加し、心身ともに健全な成長を図る。部活動の加入率を引き上げ、上級生は下級生の模範となるよう指導する。また、部活動と学習の両立を図る。	B C		
	◇人権意識の向上	○生徒の人権意識を高揚させるために、あらゆる教育活動において人権感覚を意識させる指導を行う。	B		
	◇交通安全指導の推進	○地域、PTAとも連携し、定期的に登下校時の安全について啓蒙する。特に、自転車利用者の登下校時における通学安全指導を強化する。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	最終評価		成果と課題
学校保健	◇環境・美化の推進	○学習環境を整備するために日常の清掃活動をきめ細かく丁寧に行い、ゴミ分別の徹底等の環境美化活動や広報活動を保健委員会が中心となって取り組み、学校全体の意識向上を図る。	B		<ul style="list-style-type: none"> ・年度途中から、トイレを2足制とした。更に趣旨についての理解を深める。 ・校内の美化・公共物の保全に対する意識を一層高めていく。 ・保健委員会の積極的な啓発活動により、生徒の美化意識の向上につながっている。 ・保健部と担任とが連携協力して、個々の生徒に丁寧な指導を行っている。 ・教育相談会議、特別支援教育会議の開催により、課題を持った生徒の理解や支援に組み、適切な対応を行ってきている。
	◇生徒の実態把握と支援の充実	○保健調査等により生徒の健康実態を把握し、校医・家庭・教職員との連携を密にして、健康上課題がある生徒の対応に努める。 ○スクールカウンセラー及び地域の専門機関との連携により、学校における教育相談及び特別支援の機能を充実させる。	A	A	
家庭・地域	◇広報活動の充実	○学校説明会等の改善を図り、Webによる広報も充実させ、本校の良さやコースの特徴を中学生や保護者にわかりやすく発信する。そのために、広報誌配布やHPの計画的な更新に努める。	A		<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙の発行や配布、中学生保護者向け学校説明会、中学校教員向け説明会、ホームページの更新等で、本校の特色に対する理解がすすみ、本校のイメージや特徴が定着してきている。
	◇地域・外部への的確な対応	○窓口・電話業務を迅速、丁寧に行い、地域・外部へのサービス向上に努める。	B		
安全管理	◇安心・安全な教育環境の整備	○校内危険箇所の点検を定期的に行い、早期対処に努める。また、不審者の侵入を防ぐため、外来者の確認を確実に行う。併せて、備品等の管理を徹底する。	B		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて迅速に対応することで、安全な学校生活が送れている。
生徒福祉	◇的確な生徒福祉業務の推進	○生徒の教育の保障と進路実現に向けて、就学支援金や奨学金等の業務を的確に行う。	B		<ul style="list-style-type: none"> ・適切に対応できている。

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価については、分掌間の連携がうまくいっている様子がうかがえる。取組が決まるまでの過程で、意思疎通を測っている成果と思われる。 ・評価項目が多すぎるので、ポイントを絞って話し合うべきである。各アンケートの結果をどのように見るか、項目の見直しと評価の指標が重要となるだろう。 ・情報が保護者に伝わっていない傾向があるようだ。学校の新たな取組やアピールポイントに生徒をもっと巻き込むとよいのではないか。 ・関西大学や立命館大学、京都産業大学の合格者が多いことは評価できる。 ・先生が生き生きとすれば生徒も元気になる。西乙訓高校は学校らしい学校だと感じている。 ・地元の中学からの志願者が多いということは、地元を支えられている学校と感じている。これは大切にされたい。
-------------------------	--

次年度に 向けた改善 の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の重点目標を検討し、ポイントを絞る。特に、課題認識を全ての分掌が共通して持つように部長会議を運営する。 ・授業アンケート、生徒アンケート、保護者アンケートの項目の見直しを行い、フィードバックをどのように行うかも検討する。評価の指標を事前に明確にしておく。 ・学習環境整備等については持続して行う。進路意識を持った学習を計画的に行い、進路実績に反映できるように取り組む。 ・ノー残業デイ、ノー残業ウィークの試行導入の継続も行き、先生も生徒も元気な学校づくりを目指す。 ・にしおつスタディカップの内容の見直し、表彰等の広報の工夫による学習意欲の向上を目指す。 ・国際関係者会議を中心に、国際教育・国際交流の充実に取り組む。「国際」、「英語」の特色と、落ち着いた学校としての安心感もアピールしていく。 ・地元の中学からの入学希望者の数が多い状況を維持していきたい。地元を支えられている学校との認識を持ち続ける。
-----------------------	--